

平成30年度 指定管理施設運営状況評価

1. 施設の概要

施設の名称	むつ市早掛レイクサイドヒルキャンプ場		
指定管理者	団体名	むつ商工会議所	
	代表者	会頭 其 田 桂	
	所在地	むつ市田名部字小平館の内尻釜45番地18	
指定期間	平成26年4月1日～平成31年3月31日（5年間）		
指定管理業務の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が自然とふれあい、心身の健康増進を図るため、市民参加型のイベントを実施し、地域住民が交流しながら自然と親しむ場を提供する事業。 ・周遊型観光の促進を図るため、観光施設の案内、観光情報の発信、地場製品のPRを積極的に実施し観光客のリピーター化の促進を図る事業。 ・常に清潔・安全・快適な施設を提供するための維持管理業務。 		

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。

単位：千円

区 分	計 画 額 ①	実 績 額 ②	増 減 (②-①)
収入合計(A)	10,495	10,210	▲285
うち利用料金額	3,255	3,268	13
うち指定管理料	6,915	6,915	0
支出合計(B)	10,495	9,839	▲656
うち人件費	2,905	2,890	▲15
収支差(A-B)	0	371	371
市への納入金			
計画額と比較した実績額の増減理由	<p>平年並みの実績だったため大きな増減は無かった。</p>		

3. 施設利用の状況

単位：人

利用者数	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増 減 (②-①)
	有料利用者数	5,210	5,039	▲171
	無料利用者数	830	757	▲73
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施 (有・無) <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが遊べるような施設があれば良い。 (対応：当施設は早掛沼公園に隣接しており、遊具のある早掛沼公園を紹介している。) ・施設内に虫がおり、突然のことに驚いたが、駆除する器具があり、助かった。 (対応：虫の嫌いなお客様もいらっしゃることから、いろいろ対策を講じており、引き続き、その対策について検討していく。) 				

4. 自主事業の実施業況

単位：人、千円

事業名	利用者数	収 入	支 出
オープンイベント（無料開放）	177	0	0
キャンプ場・バーベキューまつり	199	258	509

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価（A：優良 B：適正 C：改善要）

評価項目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	A	A
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	A	A
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	A	A
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	A	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	A	A
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	A	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	B	B
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	A	A
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	A	A
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	A
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	A	A
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	A	A
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	A
④利用料金の收受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	A	A
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	A	A
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	B	A
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	A	A
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	A

6. 指定管理者総合評価

平成30年度は、入場者で230人下回ったものの利用収入で約20万円前年度を上回る結果となり、前年度の天候不良による落ち込みを回復した形となった。入場者内訳も若干の増減はありますが、全体としては平年並みの利用状況だったと云える。

自主事業について、オープンイベント（無料開放）は公表前から問い合わせがあるなど好評で、BQ祭りと合わせ重点事業として定着してる。また、閑散期のケビンハウス平日利用を促進するため、地場産品を贈呈する「利用促進キャンペーン」は、重点事業として成長させていきたい。

広報活動は、主に会議所会報やFMアジュール、広報むつなどを利用する他、インターネットの会員サイトを経営する事業者と提携しておこなった。

施設についてはトイレの清潔を第一に、景観の保全のための清掃作業や草刈りなどの日常業務に加えて、ケビンハウスに対してこまめに塗装作業や修繕など自ら行ない、利用者が快適に利用できるよう整備を行っています。

7. 市の所管課総合評価

施設自体の維持管理に関しては、継続して、清潔で利用者が快適に過ごすことができるよう配慮されている。また、コンプライアンスも適正に遵守されている。利用者数は、人口減により、昨年より減少しているものの、利用料金は増となっており、今後も利用料金の増額に努めて欲しい。

広報活動については、予算の制約がある中、大変であるとは思われるが、市内のみでなく、首都圏等にも積極的に発信する手段を検討して欲しい。

自主事業については、今後も継続して行い、リピーターを増やして欲しい。